

説明会配布資料（HP掲載用）

小文間小学校跡地利活用について

令和7年10月

利活用の方向性に関するこれまでの経緯

1. 小文間小学校跡地に関する利活用計画

○平成27年3月に廃校となった小文間小学校は、その利活用方法を検討するべく、市民アンケートや市民との懇談会を経て、平成30年3月に「小文間小学校跡地に関する利活用計画（検討案）」を策定しました。

○この検討案では、小文間小学校跡地利活用計画の作成方針として、次の4つの基本方針と「歴史・文化を受け継ぐ、地域の庭」という整備テーマを設定しました。

基本方針

①学校跡地の特徴に配慮

- ・地元からの寄贈地に建てられたという経緯や、学校であったというこれまでの土地利用状況から、多くが小文間小の卒業生である周辺居住者にとって思い入れのある土地となっていることに配慮した、利活用計画を作成します。

②立地特性を活かす

- ・地域の中心地として学校用地に選定された経緯から、地域において等しく訪れやすい立地となっていることから、地域の中心に求められる機能の付与を検討します。
- ・また、少子高齢化が著しいことから、担い手の育成や多世代交流の場としての利活用を視野に入れた利活用計画を作成します。

③現在の地域状況に配慮

- ・中心市街地から離れており、人口・公共施設ともに少ない地域となっていることから、安心で質の高い生活サービスに資する活用を検討します。
- ・体育館は、運動の場として活用されていることから、今後も健康増進に資するレクリエーションの場としての機能を継承する利活用計画を作成します。

④行政ニーズへの対応

- ・現在でも避難場所としての機能を有していることから、これらの防災機能を継続した土地利用を検討します。
- ・公共施設の更新期が到来しており、今後は公民館等の機能更新も想定されます。このような公共施設更新時の種地としての活用も視野に入れた利活用計画を作成します。

利活用の方向性に関するこれまでの経緯

2. 小文間小学校跡地の利活用に関する地域懇談会の開催

- 「小文間小学校跡地に関する利活用計画（検討案）」では、旧校舎を解体する案と残す案の2種類の検討案を提示しましたが、意見が割れ、最終的な利活用方針の決定には至りませんでした。
- その後も、市政協力員や地域団体と「小文間小学校跡地の利活用に関する地域懇談会」を開催し、利活用の方向について協議を行ってきました。
- 協議を続けるうち、行政ニーズや住民要望を踏まえた上で旧校舎を保存・利活用するには課題が多いということが共有され、旧校舎を残した利活用案でなく、将来的に使い勝手のいい施設を建築し、利活用を目指す方向で検討することとしました。
- また、小文間小学校跡地に隣接する小文間公民館についても、施設の老朽化と利用率の低下が課題となっていることから、小文間小学校跡地の利活用については、

- ①既存の校舎等は全て取り壊す
 - ②公民館、体育館、防災の機能を持つ、新施設を整備する
- という方向で検討を進めることとしました。

「小文間小学校跡地に関する利活用計画（検討案）」策定後に行った地域懇談会の開催経緯

開催日	開催場所
令和3年6月29日（月）	小文間公民館 和室 鶴・亀
令和3年12月16日（木）	小文間公民館 レクリエーション室
令和5年2月13日（月）	小文間公民館 レクリエーション室
令和6年7月12日（金）	小文間公民館 レクリエーション室
令和7年2月10日（月）	小文間公民館 レクリエーション室

小文間小学校跡地利活用の考え方

1. 4つの基本方針、整備テーマ、住民意見、行政ニーズを踏まえた機能の展開

○「小文間小学校跡地に関する利活用計画（検討案）」で示した4つの基本方針と整備テーマ「歴史・文化を受け継ぐ、地域の庭」をもとに、これまでにいただいた地域住民からの意見や近年の行政ニーズの視点を加え、次のような4つの機能展開を図ることとします。

①学校跡地の特徴に配慮

- 地域とともに歩んできた歴史を継承する
- 学びの場、交流の場という機能を継承する

①地域の歴史・思い出を学ぶ場所

小文間小学校が地域とともに歩んできた歴史や思い出を保存することで、小文間地域の歴史を継承し、学べる場としての機能の導入を検討します。

②立地特性を活かす

- 地域のコミュニティ拠点を目指す
- 台地という地形的な安全性を活用する

②いきいきと暮らすことができる心身を育む場所

地域の中心にあることから、地域の人々が集まり、生涯学習や健康づくりなどを通じて交流できる場としての機能の導入を検討します。

③現在の地域状況に配慮

- 世代を超えた交流を創出する
- 他の地域との交流を創出する

③世代・地域を超えた「連携」と「共創」を実現する場所

近年、人口減少や少子高齢化の中で、ニーズが高まっている、こどもや高齢者の居場所づくりを目指した機能の導入を検討します。また、世代を超えた交流や他地域との交流を創出することで、コミュニティの維持や地域との交流人口を増やすことを目指した機能の導入を検討します。

④行政ニーズへの対応

- 災害対応力を強化する
- 公共施設マネジメントに取り組む

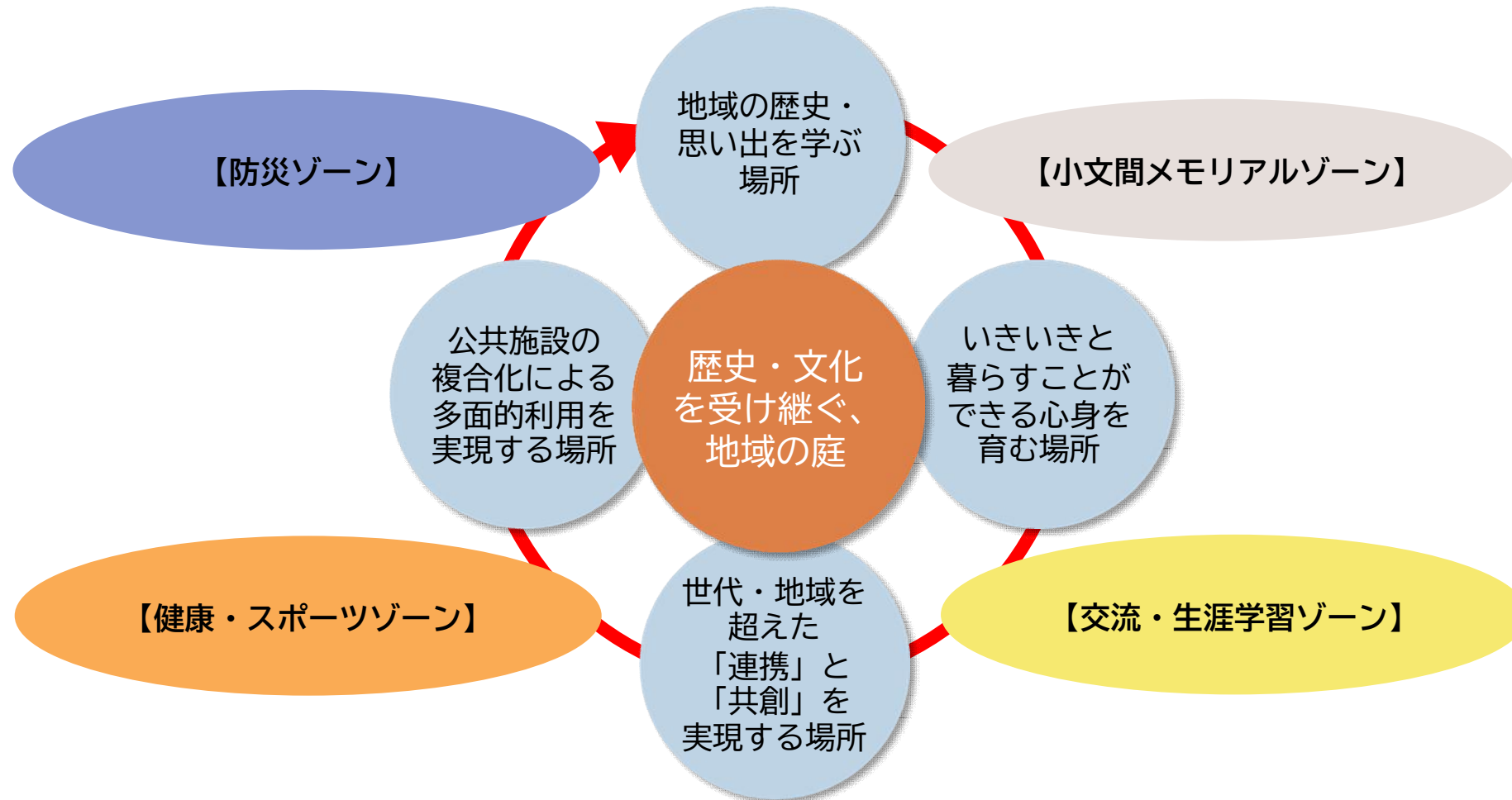
④公共施設の複合化による多面的利用を実現する場所

災害対応力の強化や、老朽化が進む小文間公民館との複合化を目指した機能の導入を検討します。

利活用に向けたゾーニング

1. 4つのゾーンによる未来の小文間づくりの展開

○利活用に向けた4つの方向性を踏まえ、4つのゾーンを設定します。



利活用に向けたゾーニング

2. 4つのゾーンのイメージ

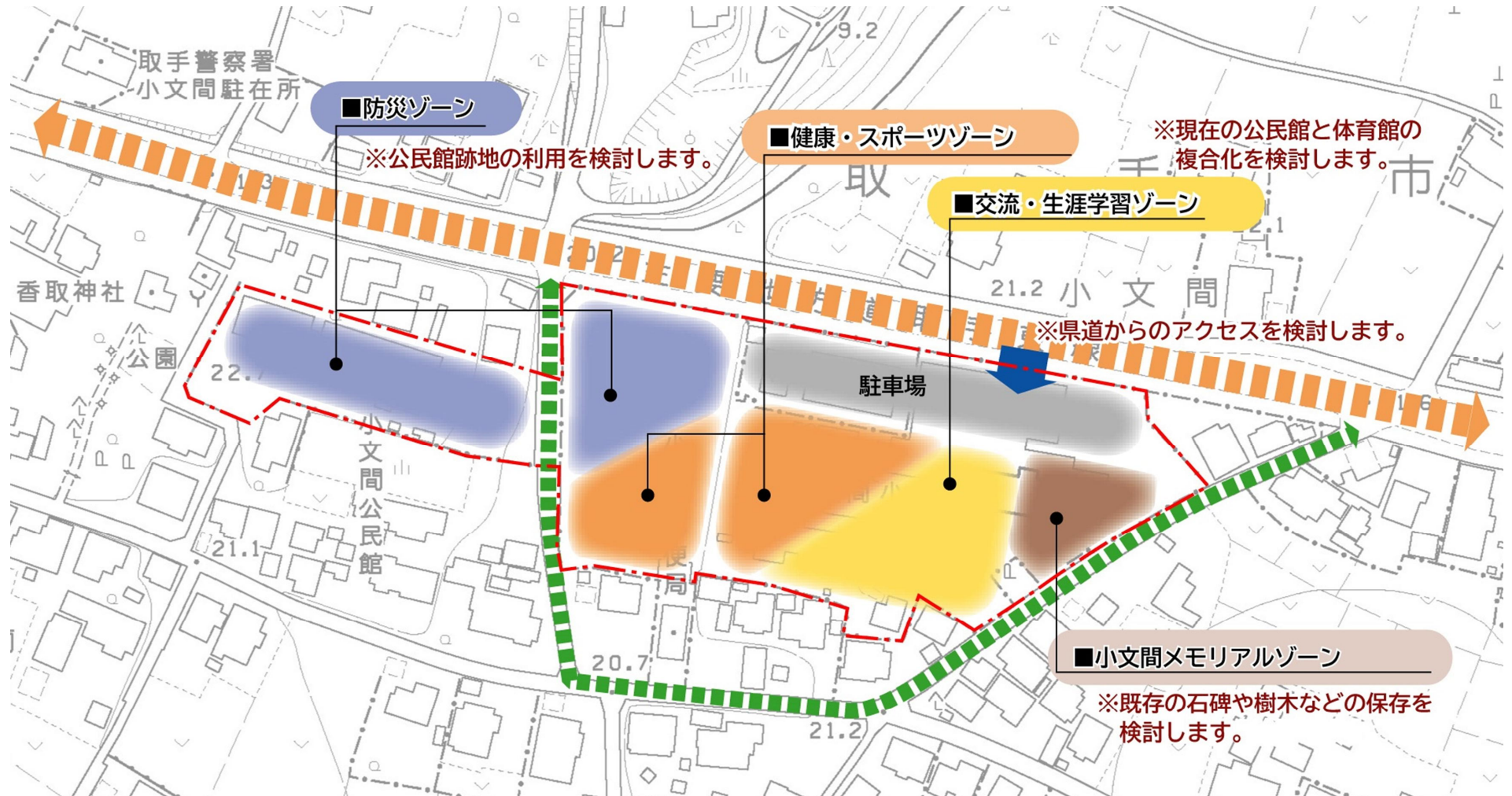
○4つのゾーンについては、それぞれ次のようなイメージで検討を進めることを考えています。

ゾーン	ゾーンのイメージ
①小文間メモリアルゾーン	○正門付近にある石碑や記念樹木などを保存し、小文間小学校の歴史や思い出を残す空間としての整備を検討します。
②交流・生涯学習ゾーン	○住民が世代や地区を超えて集い、地域の「居場所」となる空間づくりを目指し、□ビーの整備をはじめとして、コミュニティ活動拠点や生涯学習の場としての整備を検討します。
③健康・スポーツゾーン	○健康づくり、スポーツのための空間などの整備を検討します。
④防災ゾーン	○市全体を対象として、災害時の防災力を高めるための備品や機材を保管する倉庫の整備や、防災訓練などを行える空間の確保を検討します。
その他	○校庭は、現在行われている盆踊りなどの活動の場として、保全することを検討します。 ○避難所としての利用や地区を超えた交流を考慮し、駐車場を広く設けることを検討します。

利活用に向けたゾーニング

3. 施設構成の考え方

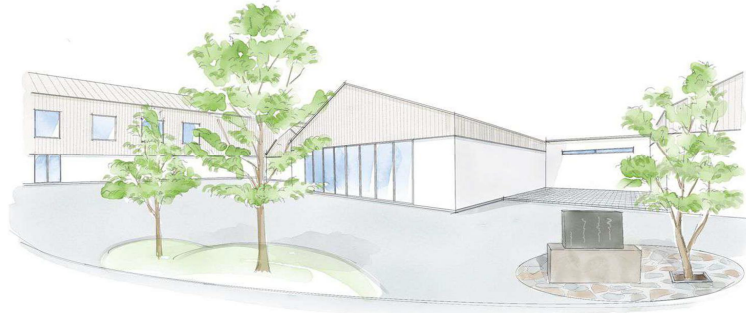
- 既存校舎と体育館を解体し、公民館と体育館が複合した施設を検討します。
- 既存の公民館を解体し、防災倉庫など防災ゾーンとしての利用を検討します。
- 駐車場はアクセス性を考慮し、県道側に配置します。
- 校庭は現状のまま保全し、地域行事や運動の場として確保します。



※各ゾーンの名称やイメージについては、現在の「たたき台」であり、確定したものではありません。

利活用に向けたゾーニング

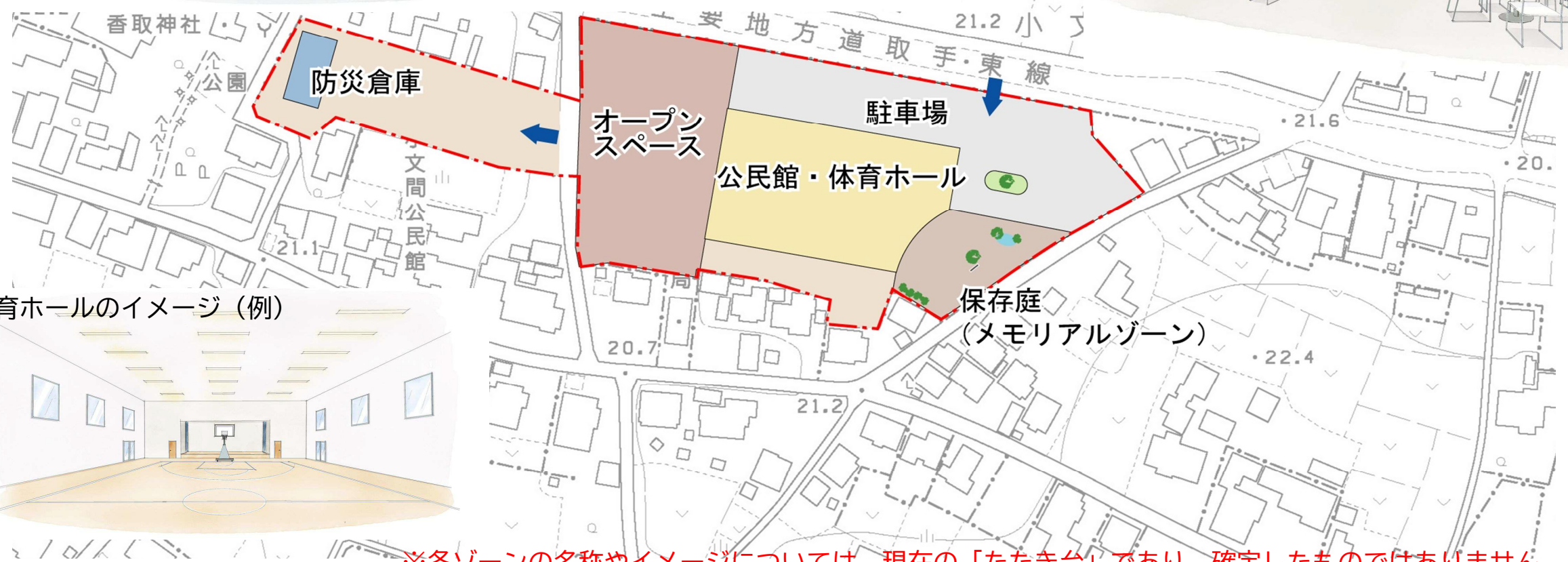
外観のイメージ（例）



ロビーのイメージ（例）



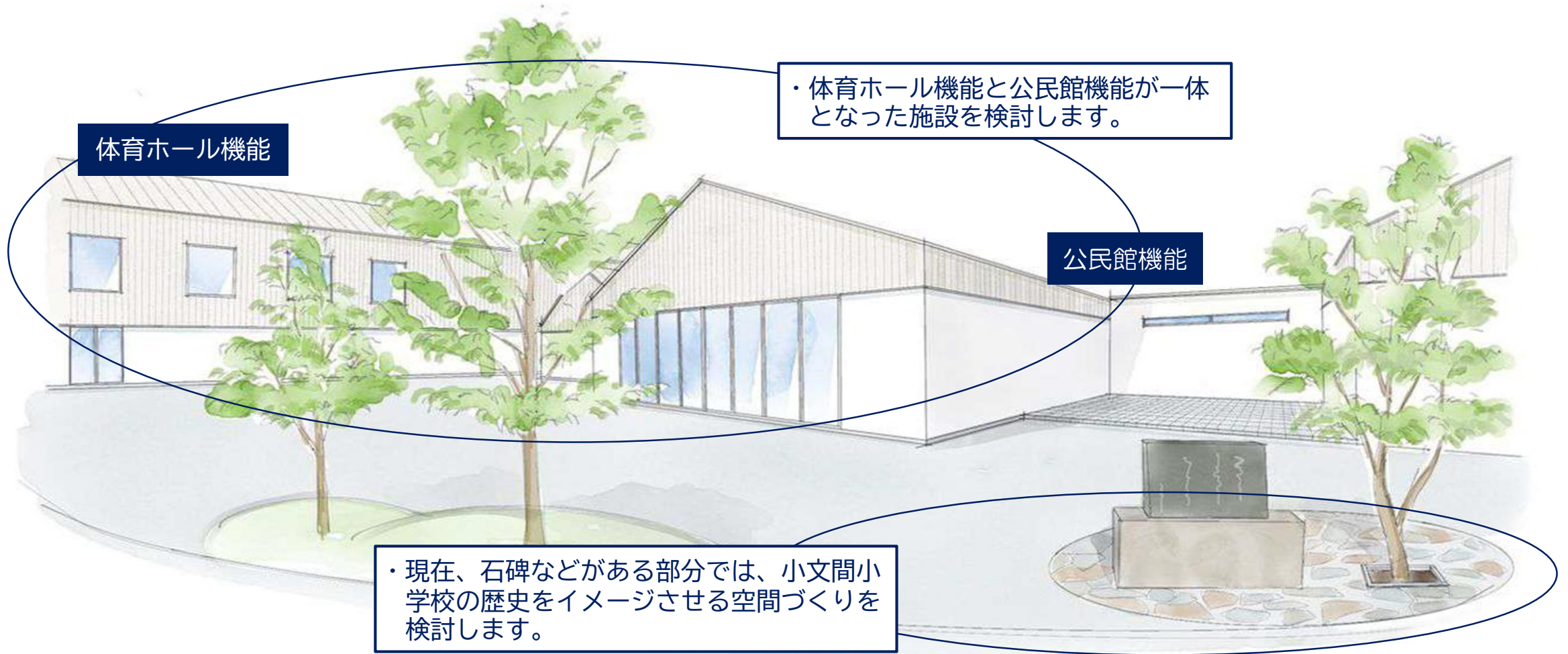
体育ホールのイメージ（例）



※各ゾーンの名称やイメージについては、現在の「たたき台」であり、確定したものではありません。

小文間小学校跡地利活用計画イメージパース

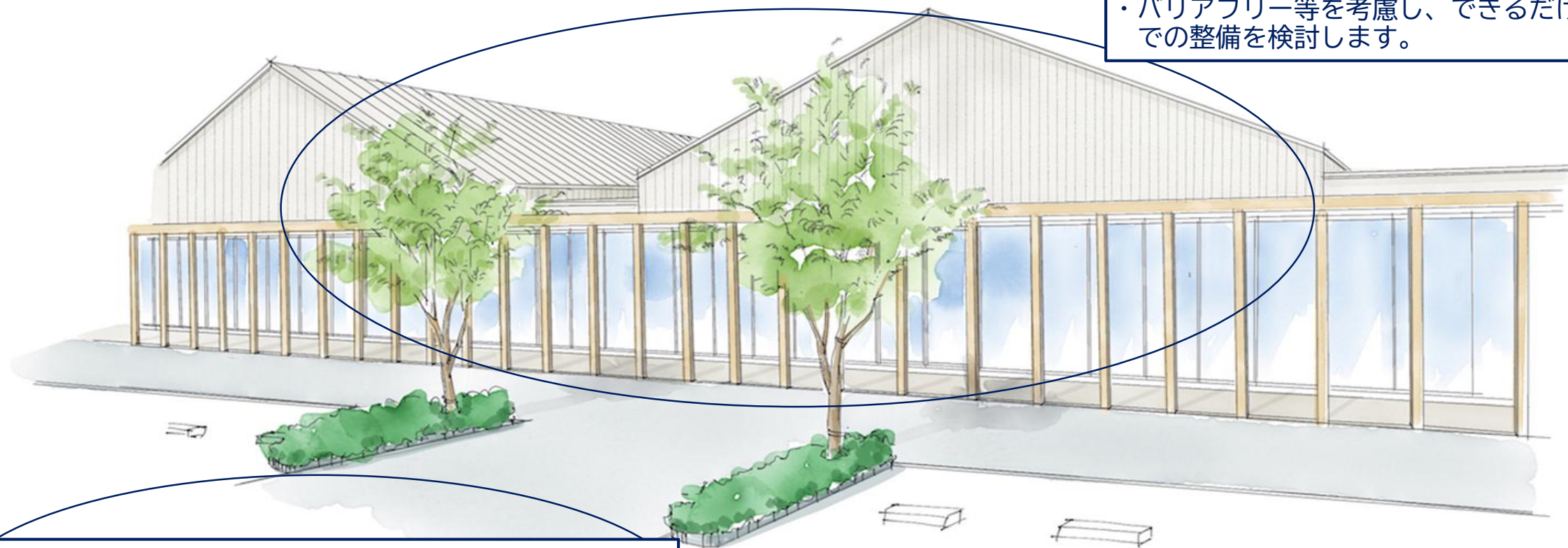
①建物外観(南側)のイメージ



※パースはイメージであり、確定した整備計画ではありません。

小文間小学校跡地利活用計画イメージパース

②建物外観(北側)のイメージ



・バリアフリー等を考慮し、できるだけ平屋での整備を検討します。

・駐車場は敷地北側（県道側）に配置することを検討します。
駐車台数はできるだけ多く確保することを検討します。

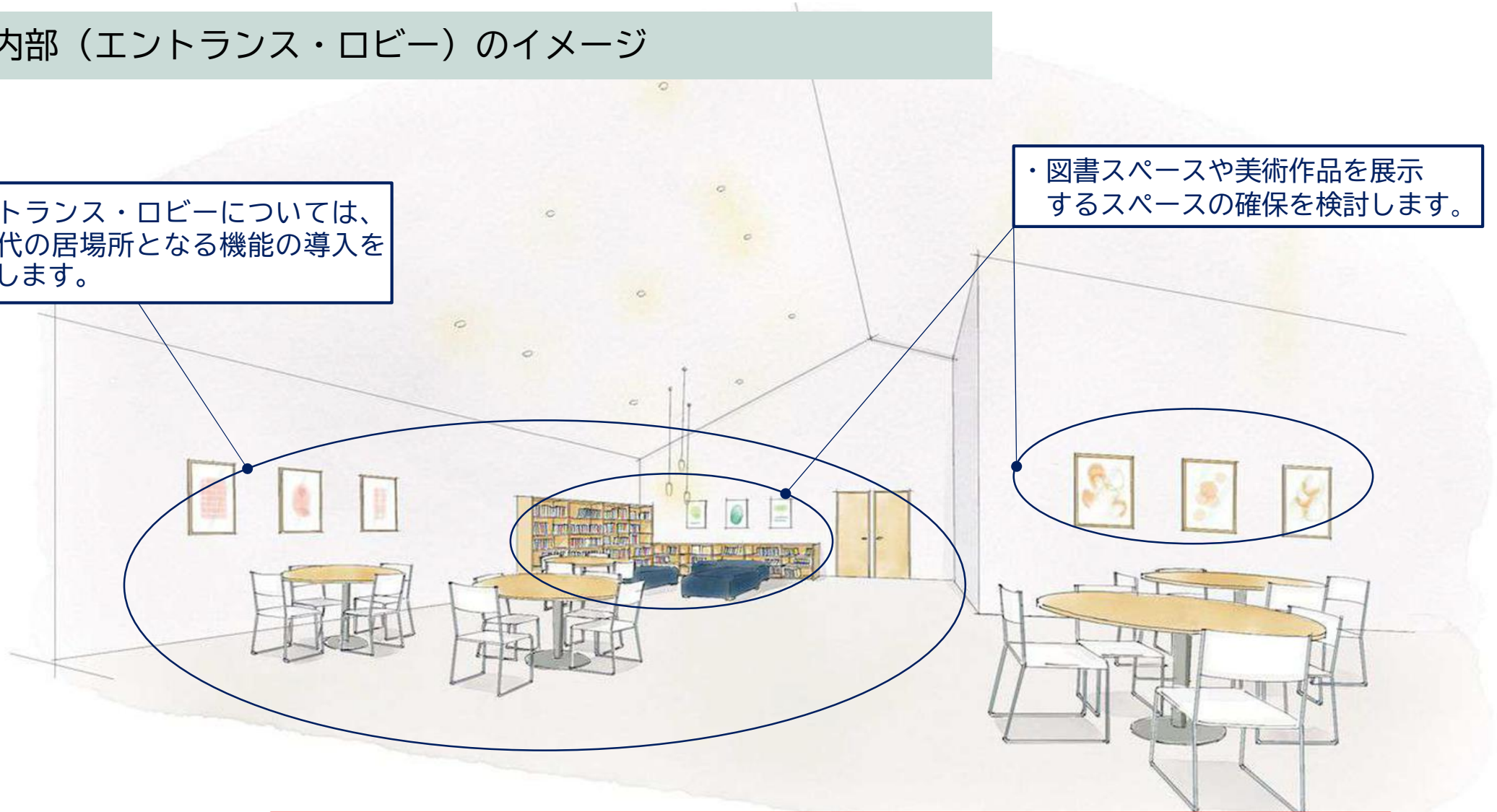
※パースはイメージであり、確定した整備計画ではありません。

小文間小学校跡地利活用計画イメージパース

③建物内部（エントランス・ロビー）のイメージ

・エントランス・ロビーについては、多世代の居場所となる機能の導入を検討します。

・図書スペースや美術作品を展示するスペースの確保を検討します。



※パースはイメージであり、確定した整備計画ではありません。

小文間小学校跡地利活用計画イメージパース

④体育ホールのイメージ

